

人間が育つ社会

相談の仕事をしていてつくづく思うのは、今「育つ環境」が壊れているということだ。子どもが育つには、第一にモデルが必要。大人がモデルを示せば子どもは育つ。しかし今の子どもはそれに恵まれていない。たとえモデルがあっても「悪口社会」の雰囲気巻き込まれて、見えなくなっている。大人は人の長所を発見し、子どもの前ではめるべきではないか。成熟した人間は短所より長所を見るものだ。

第二に必要なことは、失敗に寛容なことだ。誰にでも失敗はある。しかし今の大人は、人の過失に対して、あたかも鬼の首を捕ったような反応を示す傾向がある。人は失敗を重ねながら、心の彫りの深い人に成長するものだ。失敗した者を見下すような人が多い社会では、人間は育ちににくい。

三番目に必要なことは、幸せになる哲学を持つことだ。幸せには①くしてもらう幸せ、②くできる幸せ、③くさせてもらう幸せの三つがある。今の大人に欠けているのは、②と③の幸せを求めることだ。②の幸せを求める人、つまり生きがいを追求する人は、失敗して苦しむ者を責めたりしないものだ。また③の幸せを味わう人が、缶や瓶をどこにでも捨てるだろうか。

②や③の幸せを知らないから、誰も愛してくれない、分かってくれないなどと、①にこだわりの、世の中を恨むのだ。

このように育つ環境が壊れている。にも関わらず大人は言葉で教えることに熱心だ。しかし、モデルを示さず言葉で教えるのは手抜きではないのか。

私が出会う子どもたちは本物に飢えている。教育問題の根本に、こんな社会の姿が見え隠れしていることをお伝えしたい。



沢田の杖塾 主宰 森 〇 章

(二〇〇七年 七月十二日夕刊掲載)